

2015/5/15

柏の景気情報（平成27年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成27年4月分）

○ 調査期間 : 平成27年4月21日 ~ 5月8日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	83	53.2%
建設	44	23	52.3%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	36	15	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成27年4月の調査結果のポイント】

◀業況DIはやや悪化。コスト増や物価高騰により先行きも慎重な見方が続く▶

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.8(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が4.8ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△13.3(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.5(同△15.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.0(同▲9.0)、卸小売業▲44.4(同▲42.3)である。

【建設業】からは、「今月に入ってから引き合いが増えてきた。理由は分からないが、消費税アップから1年経過し、動き出したのか」(一般土木建築工事業)、「新築住宅は減少。リフォーム工事も昨年より減少しています」(その他の職別工事業)、「景気の回復感が全く無い。増税前の駆け込み需要の反動か、増税の影響か、今後の見積り物件が少ない。原材料は高騰したままだが、施工単価は逆に下がっている」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「印刷業界全体の低迷がまだ続いているように思える。我々中小企業においては、設備投資の引き金となる好機の材料が見当たらない」(印刷業)、「全体とすれば従業員は適正と考えるが、職場により工数が不足気味の部署も見られる」(酒類製造業)、「前年同月と比較すると、売上高は上昇している。資金繰りはひたすら借入れ返済に専念して、負担度を軽くし、運転資金の健全化を図っている」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「東京や成田にある系列店では、外国からのお客様が売上増加に大きく影響しているが、柏では殆ど影響が無く、厳しい状況が続いている」(その他の各種商品小売業)、「物価の高騰で買い控えを感じる。4月の賃上げでカバーされるか不安」(その他の各種商品小売業)、「当店にとって影響が大きいことは、乳製品とチョコレートの値上げです」(菓子・パン小売業)、「4月初旬から下旬頃の関東から九州は、天候不順が続き、日照時間が半分程度となって、青果物の生育の遅れから入荷量が減少し、主要野菜の価格は高騰した取引となって推移しました。果実も同様で品薄傾向から高値取引をしています。その後、天候が回復し、気温の上昇により品薄だった野菜の入荷量は増加し、相場を戻している品目もあります」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人需要の海外は、7月のスイスと9月のアイスランドへのチャーター便が好評。定期直行便のない都市へのアクセスの良さが好印象。国内は、関東近郊へのGW間際需要が旺盛。法人需要では、秋の職場旅行の検討に入り始めている企業が多い」(旅行業)、「お客様からの問合せは相変わらず活発です。利益の出ている法人需要が出てきました。一般の顧客は、低価格の物件に対しての引き合いが多いです」(不動産管理業)、「不動産は好調ですが、タイミングをずらすと決まらないのがまだ柏の弱さでしょうか」(不動産賃貸業)、「年度末の繁忙期も良好な内に終わり新年度を迎えましたが、重税感をかなり感じています。やはり、消費税の影響が一番大きいと思います」(不動産賃貸・管理業)、「景気上向きに思えるも、業界中小は単価下落に厳しい状態」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

各業種より、「材料費の上昇が止まらないのが不安。これだけ何もかも仕入単価が上がっても、製品価格に転嫁出来ず辛いです」(内装工事業)、「原材料が取引在庫減少と投機マネーの流入で高騰」(特殊産業用機械)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順による販売不振

各業種より、「去年は増税前にも関わらず、前年比10%の伸びを見たが、今年は逆に全く不調。衣料品は天候に大きく左右されるが、寒さが来ると全く売れなくなる。春物のセールも今迄に無い位悪かった」(婦人・子供服小売業)、「天候不順のせいか、消費者の買い控えか不明。過剰な気象予報があった日は外出する人が非常に少なく感じる」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「4月上旬は、例年がない天候の悪さにより、前年比を下回った」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不透明

各業種より、「景気が回復した感はあるが、3ヶ月以上先が全然見えない」(電気工事業)、「2015年度は、一定の売上が見込めるものの収益面が不透明」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲28.7	▲9.5	▲25.0	▲53.5	▲13.3
12月	▲32.1	▲15.3	▲22.2	▲68.0	▲13.3
1月	▲24.3	▲20.0	±0.0	▲54.1	▲13.3
2月	▲18.5	▲28.5	▲5.2	▲32.0	±0.0
3月	▲12.0	▲9.0	△15.7	▲42.3	±0.0
4月	▲16.8	▲13.0	▲5.5	▲44.4	△13.3
見通し	▲14.4	▲13.0	▲11.1	▲33.3	△13.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.8(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が4.8ポイント拡大した。

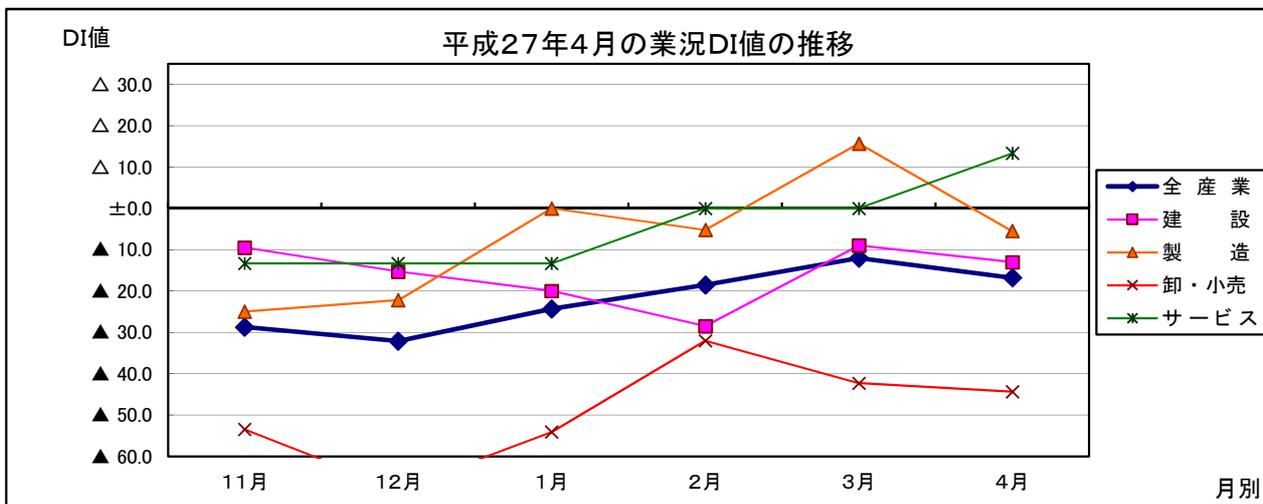
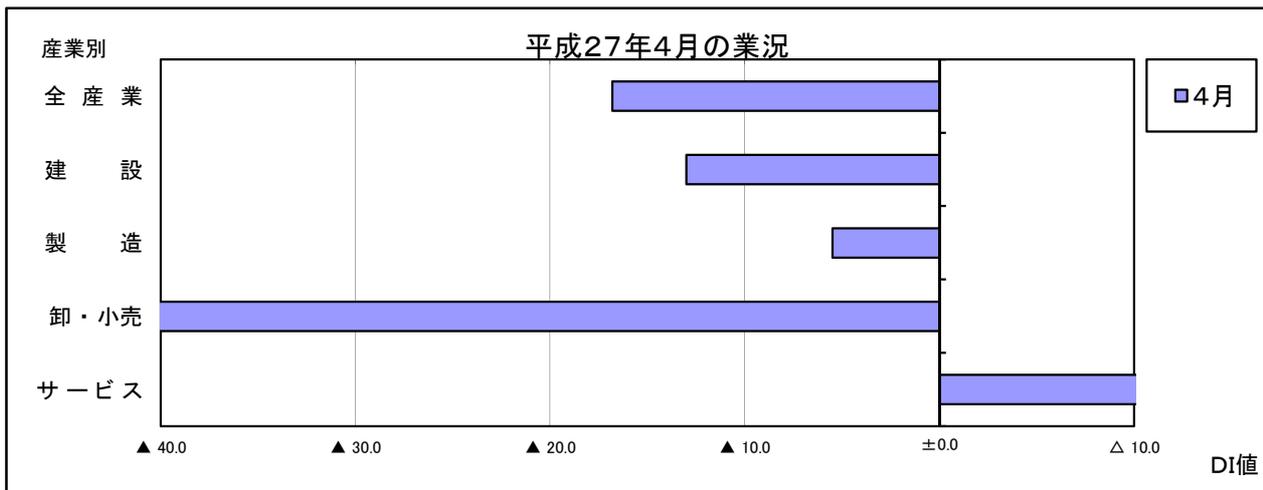
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△13.3(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.5(同△15.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.0(同▲9.0)、卸小売業▲44.4(同▲42.3)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が2.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△13.3(同△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲42.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲13.0(同△4.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲5.2)である。

平成27年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲28.7	▲32.1	▲24.3	▲18.5	▲12.0	▲16.8	▲14.4(▲12.0)
建設	▲9.5	▲15.3	▲20.0	▲28.5	▲9.0	▲13.0	▲13.0(△4.5)
製造	▲25.0	▲22.2	±0.0	▲5.2	△15.7	▲5.5	▲11.1(▲5.2)
卸・小売	▲53.5	▲68.0	▲54.1	▲32.0	▲42.3	▲44.4	▲33.3(▲42.3)
サービス	▲13.3	▲13.3	▲13.3	±0.0	±0.0	△13.3	△13.3(△6.2)



【平成27年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.4(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

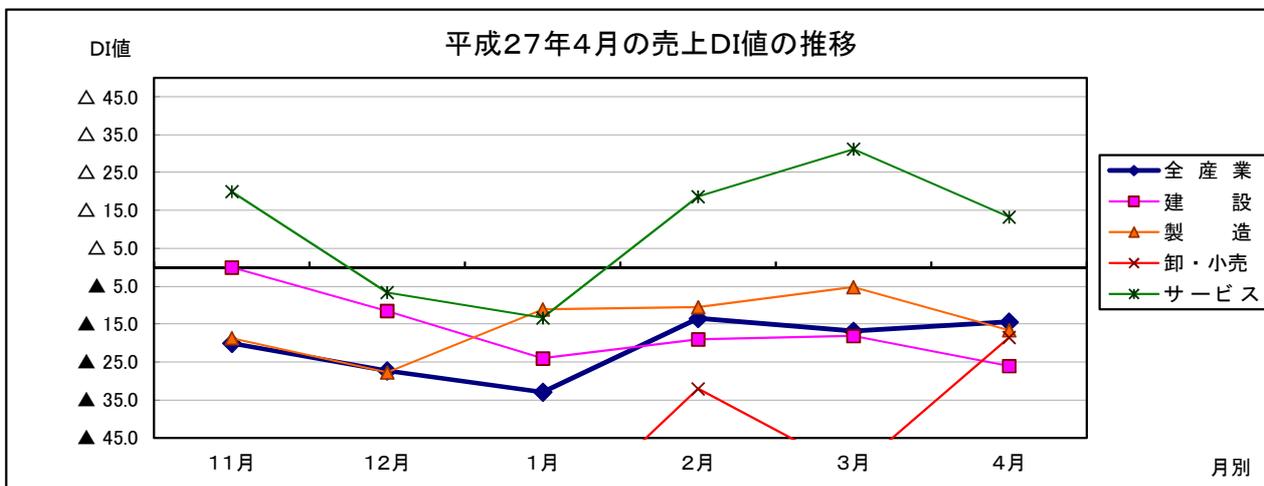
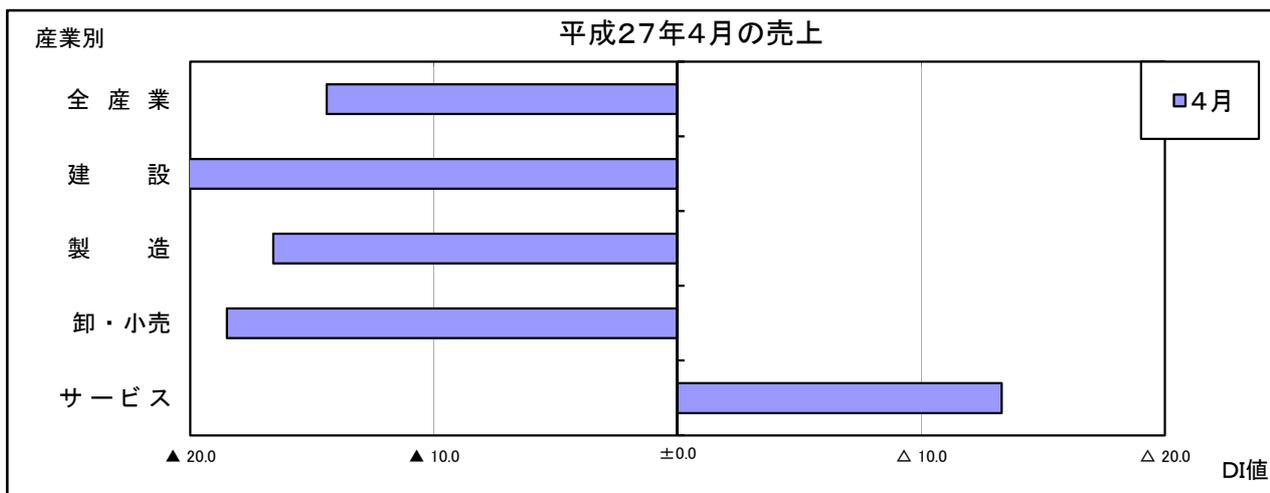
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲18.5(同▲53.8)であり、35.3ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△13.3(同△31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.6(同▲5.2)、建設業▲26.0(同▲18.1)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.6(前月水準▲7.2)となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△26.6(同△12.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲11.1(▲30.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲8.6(同△4.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲5.2)である。

平成27年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲20.0	▲27.3	▲32.9	▲13.5	▲16.8	▲14.4	▲3.6(▲7.2)
建設	±0.0	▲11.5	▲24.0	▲19.0	▲18.1	▲26.0	▲8.6(△4.5)
製造	▲18.7	▲27.7	▲11.1	▲10.5	▲5.2	▲16.6	▲11.1(▲5.2)
卸・小売	▲57.1	▲56.0	▲70.8	▲32.0	▲53.8	▲18.5	▲11.1(▲30.7)
サービス	△20.0	▲6.6	▲13.3	△18.7	△31.2	△13.3	△26.6(△12.5)



【平成27年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.3(前月水準▲24.0)となり、マイナス幅が7.3ポイント拡大した。

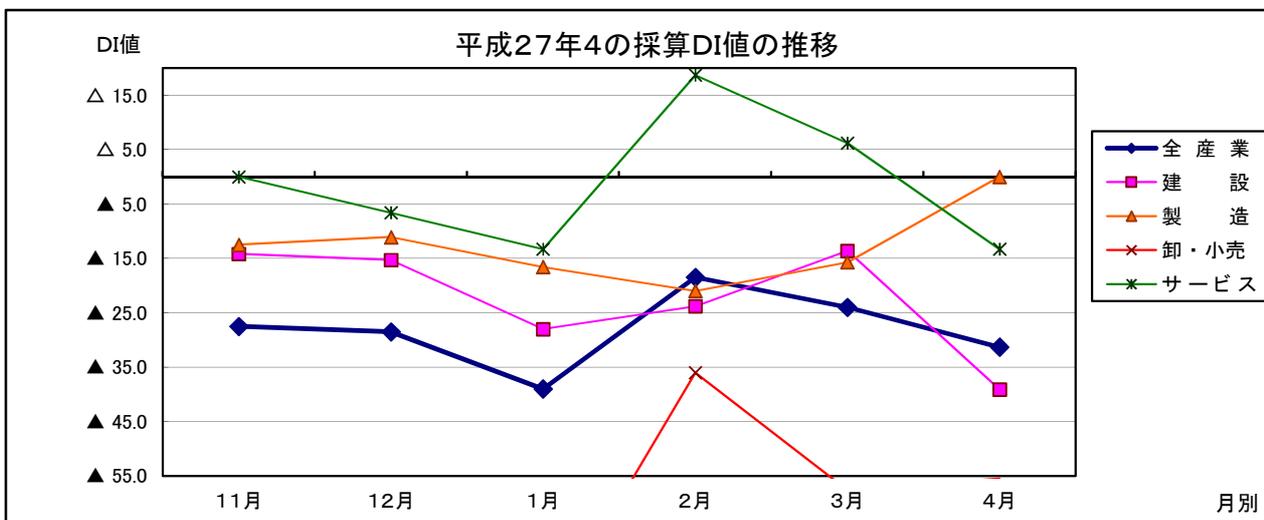
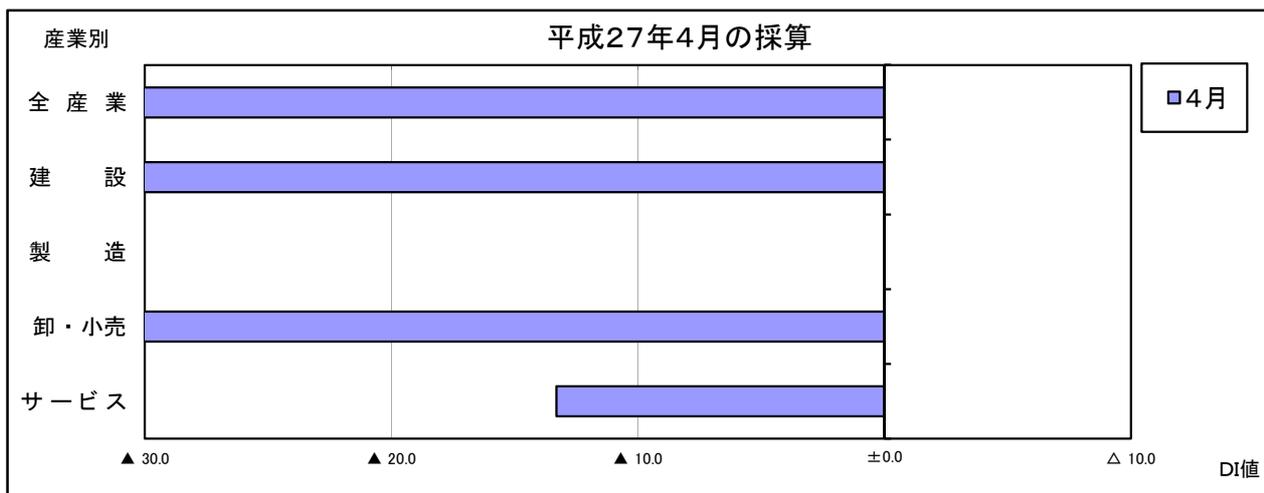
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲15.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲55.5(▲57.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲13.3(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲39.1(同▲13.6)であり、25.5ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.2(同▲13.2)となり、マイナス幅が6.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡がる見通しの業種は、サービス業△13.3(同△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲37.0(同▲38.4)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲17.3(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲22.2(同▲10.5)である。

平成27年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲27.5	▲28.5	▲39.0	▲18.5	▲24.0	▲31.3	▲19.2(▲13.2)
建設	▲14.2	▲15.3	▲28.0	▲23.8	▲13.6	▲39.1	▲17.3(±0.0)
製造	▲12.5	▲11.1	▲16.6	▲21.0	▲15.7	±0.0	▲22.2(▲10.5)
卸・小売	▲60.7	▲68.0	▲83.3	▲36.0	▲57.6	▲55.5	▲37.0(▲38.4)
サービス	±0.0	▲6.6	▲13.3	△18.7	△6.2	▲13.3	△13.3(△6.2)



【平成27年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.3(同▲44.5)となり、マイナス幅が1.2ポイント縮小した。

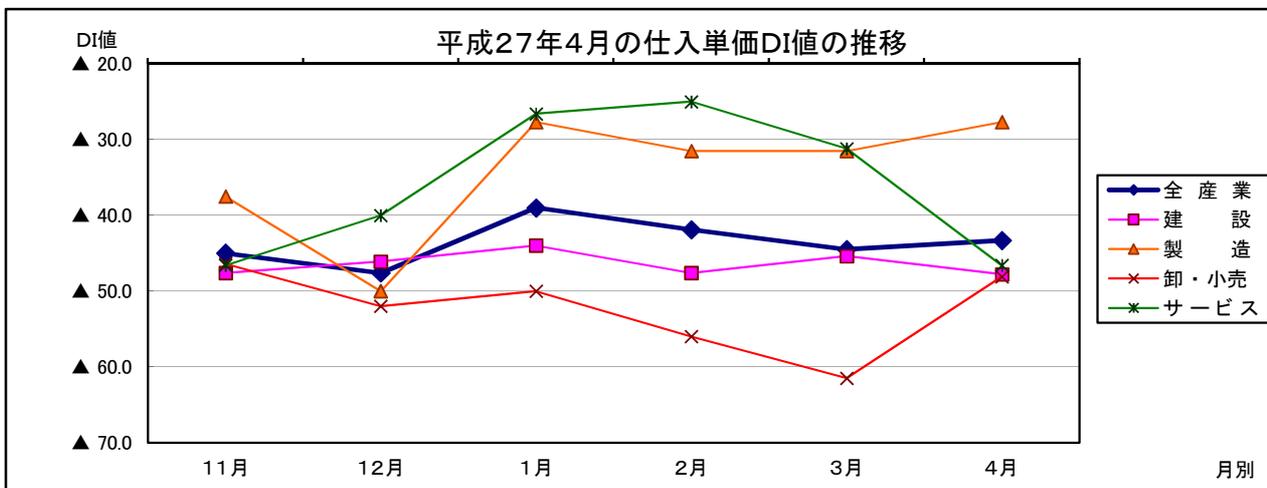
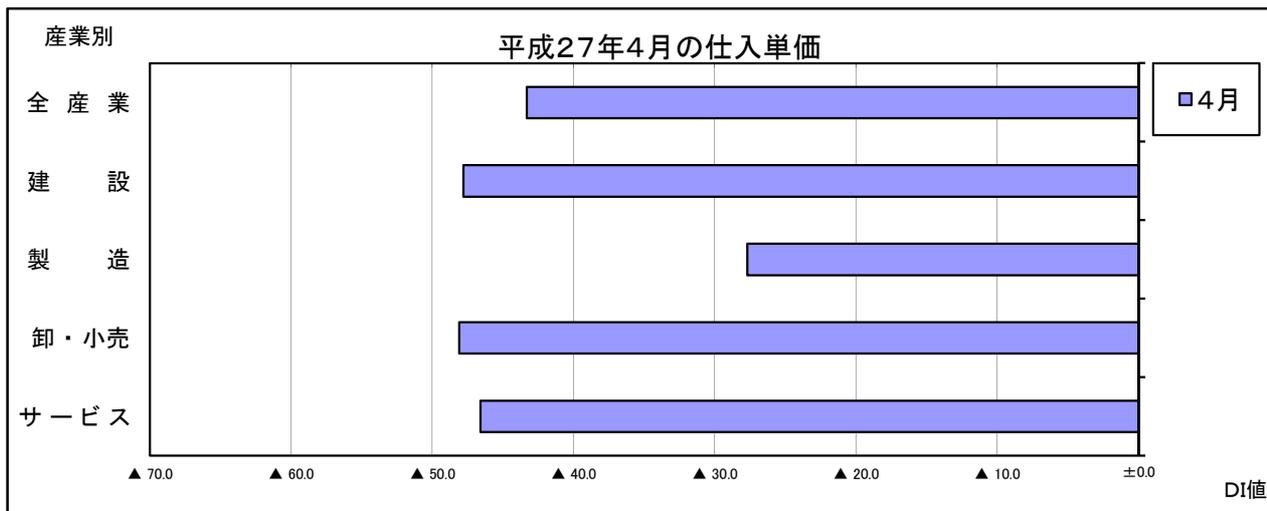
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.1(同▲61.5)、製造業▲27.7(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲31.2)、建設業▲47.8(同▲45.4)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.3(同▲38.5)であり、マイナス幅が7.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、建設業▲26.0(同▲40.9)、卸小売業▲37.0(同▲42.3)、製造業▲22.2(同▲26.3)、サービス業▲40.0(同▲43.7)である。

平成27年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲45.0	▲47.6	▲39.0	▲41.9	▲44.5	▲43.3	▲31.3(▲38.5)
建設	▲47.6	▲46.1	▲44.0	▲47.6	▲45.4	▲47.8	▲26.0(▲40.9)
製造	▲37.5	▲50.0	▲27.7	▲31.5	▲31.5	▲27.7	▲22.2(▲26.3)
卸・小売	▲46.4	▲52.0	▲50.0	▲56.0	▲61.5	▲48.1	▲37.0(▲42.3)
サービス	▲46.6	▲40.0	▲26.6	▲25.0	▲31.2	▲46.6	▲40.0(▲43.7)



【平成27年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△8.4(前月水準△7.2)となり、プラス幅が1.2ポイント拡大した。

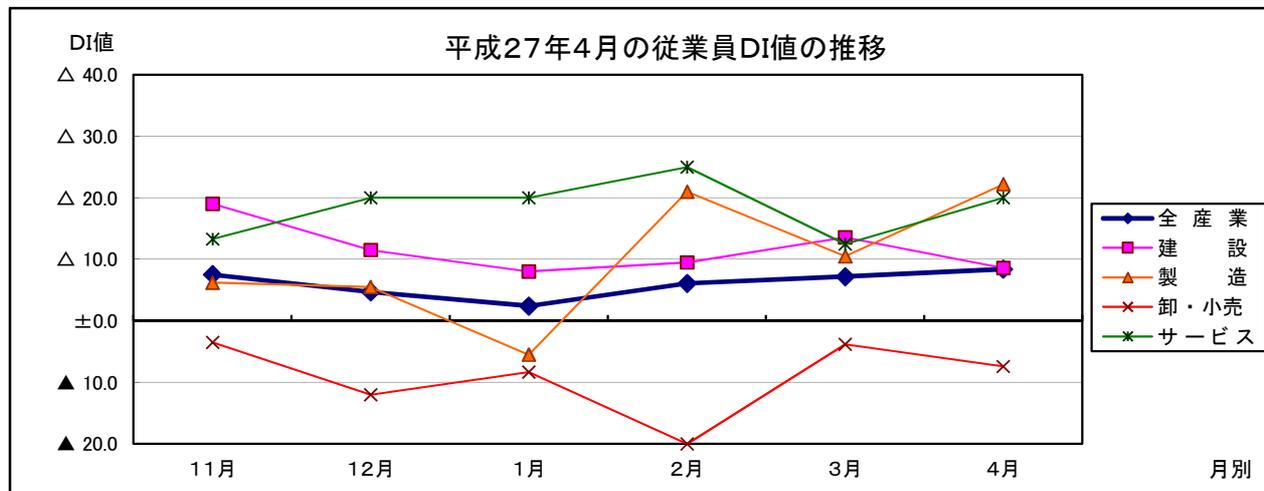
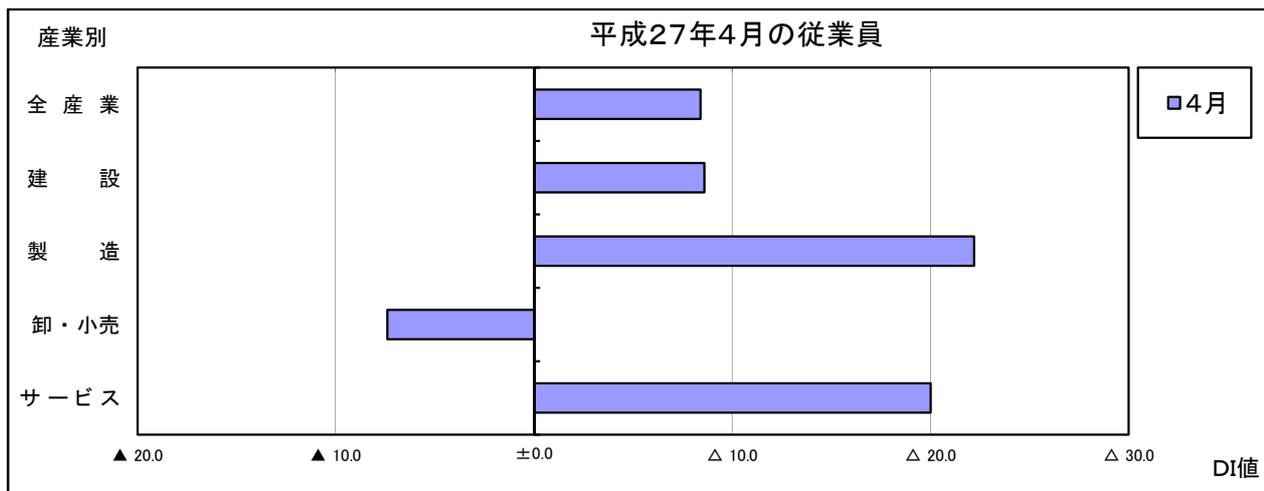
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△22.2(同△10.5)、サービス業△20.0(同△12.5)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△8.6(同△13.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲7.4(同▲3.8)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△8.4(同△8.4)であり同じである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△13.0(同±0.0)、製造業△16.6(同△15.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△13.3(同△18.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲3.7(同△3.8)である。

平成27年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	△7.5	△4.7	△2.4	△6.1	△7.2	△8.4	△8.4(△8.4)
建設	△19.0	△11.5	△8.0	△9.5	△13.6	△8.6	△13.0(±0.0)
製造	△6.2	△5.5	▲5.5	△21.0	△10.5	△22.2	△16.6(△15.7)
卸・小売	▲3.5	▲12.0	▲8.3	▲20.0	▲3.8	▲7.4	▲3.7(△3.8)
サービス	△13.3	△20.0	△20.0	△25.0	△12.5	△20.0	△13.3(△18.7)



【平成27年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.0(前月水準▲6.0となり、マイナス幅が6.0ポイント拡大した。

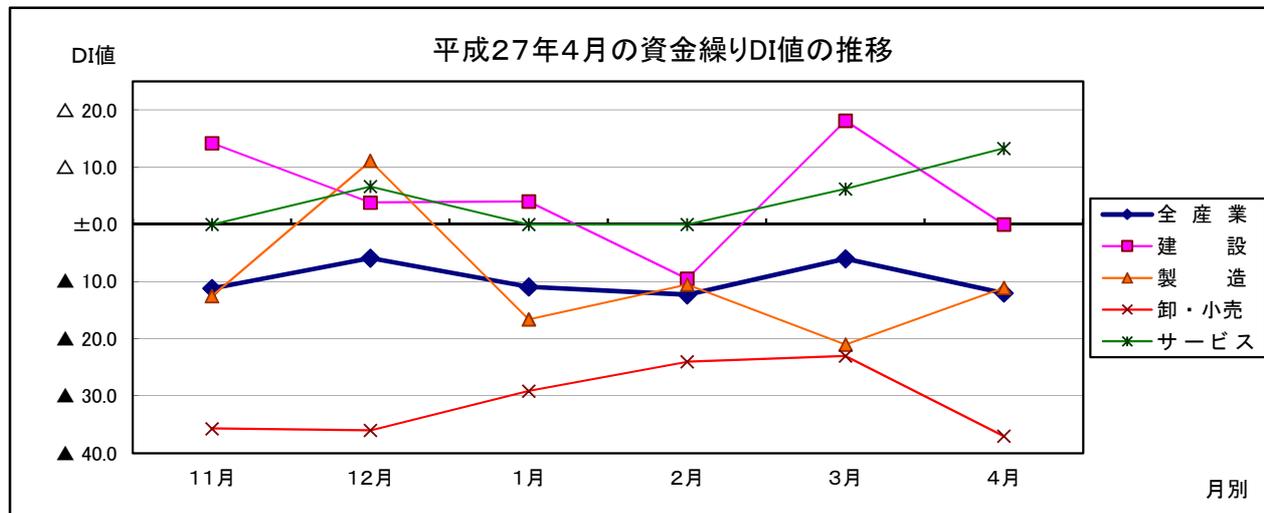
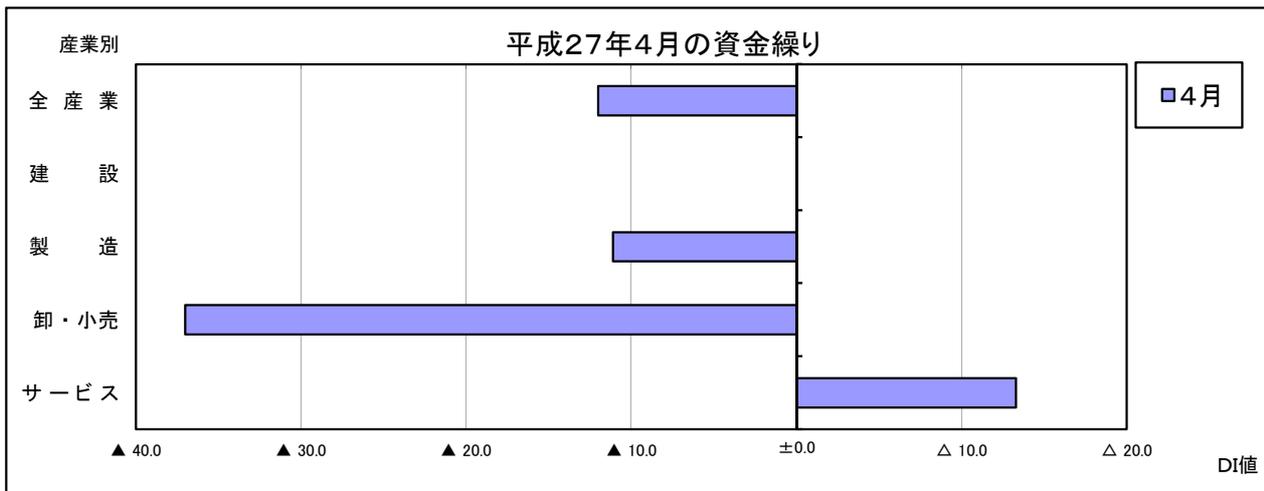
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△13.3(同△6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲21.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△18.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲37.0(同▲23.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.8(前月水準▲3.6)となり、マイナス幅が1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△13.3(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22.2(同▲26.9)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△8.6(同△13.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲11.1(△5.2)である。

平成27年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲11.2	▲5.9	▲10.9	▲12.3	▲6.0	▲12.0	▲4.8(▲3.6)
建設	△14.2	△3.8	△4.0	▲9.5	△18.1	±0.0	△8.6(△13.6)
製造	▲12.5	△11.1	▲16.6	▲10.5	▲21.0	▲11.1	▲11.1(△5.2)
卸・小売	▲35.7	▲36.0	▲29.1	▲24.0	▲23.0	▲37.0	▲22.2(▲26.9)
サービス	±0.0	△6.6	±0.0	±0.0	△6.2	△13.3	△13.3(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.4	▲ 3.6	▲ 31.3	▲ 19.2	▲ 43.3	▲ 31.3	△ 8.4	△ 8.4
建設	▲ 26.0	▲ 8.6	▲ 39.1	▲ 17.3	▲ 47.8	▲ 26.0	△ 8.6	△ 13.0
製造	▲ 16.6	▲ 11.1	±0.0	▲ 22.2	▲ 27.7	▲ 22.2	△ 22.2	△ 16.6
卸・小売	▲ 18.5	▲ 11.1	▲ 55.5	▲ 37.0	▲ 48.1	▲ 37.0	▲ 7.4	▲ 3.7
サービス	△ 13.3	△ 26.6	▲ 13.3	△ 13.3	▲ 46.6	▲ 40.0	△ 20.0	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.8	▲ 14.4	▲ 12.0	▲ 4.8
建設	▲ 13.0	▲ 13.0	±0.0	△ 8.6
製造	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1
卸・小売	▲ 44.4	▲ 33.3	▲ 37.0	▲ 22.2
サービス	△ 13.3	△ 13.3	△ 13.3	△ 13.3

【平成27年4月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	今月に入ってから引き合いが増えてきた。理由は分からないが、消費税UPから1年経過し、動き出したのか。	引き合い増加	一般土木建築工事業
	仕上げ業者の為、仕事が少ないというのが今までの傾向だったが、今年度はまだ始まっていないので、いつ仕事が有るのかも不明という状況。とても深刻と言える。	先行き不透明 業況の深刻化	石工れんがタイルブロック工事業
	景気が回復した感はあるが、3ヶ月以上先が全然見えない。小規模工事に頼っている。	先行き不透明 景気回復の感	電気工事業
	景気回復感が全く無い。増税前の駆け込み需要の反動か、増税の影響か、今後の見積り物件が少ない。原材料は高騰したままだが、施工単価は逆に下がっている。材料販売店の売上高の落ち込みもひどく、4月は代理店独自の値引きや営業も多々あった。当社としては、前年並みの売上は維持できたが、同業者、職人からの仕事の要請、要望も多々あった。業界全般、暇な感がある。	実感なき景気回復 消費税増税の影響 見積り件数減少 原材料費高騰(高止まり) 施工単価下落	その他の職別工事業
	材料費の上昇が止まらないのが不安。これだけ何もかも仕入単価が上がっても、製品価格に転嫁出来ず辛いです。	原材料費高騰 価格転嫁	内装工事業
	新築住宅は減少。リフォーム工事も昨年より減少しています。	新築住宅減少 リフォーム減少	その他の職別工事業
製造業	印刷業界全体の低迷がまだ続いているように思える。我々中小企業においては、設備投資の引き金となる好機の材料が見当たらない。	業界全体の低迷	印刷業
	原材料が取引在庫減少と投機マネーの流入で高騰。福島原発汚染水関連工事が増加傾向。	原材料費高騰 福島原発関連工事	特殊産業用機械
	昨年末の駆け込みにより売上高が上昇した。円安の影響により、海外部品調達が増え、国内へ戻りつつある。2015年度は、一定の売上が見込めるものの収益面が不透明。	売上上昇 円安の影響 先行き不透明(収益面)	その他の機械・同部品製造業
	全体とすれば従業員は適正と考えるが、職場により工数が不足気味の部署も見られる。	一部工数不足	酒類製造業
	前年同月と比較すると、売上高は上昇している。資金繰りはひたすら借入れ返済に専念して、負担度を軽くし、運転資金の健全化を図っている。	売上上昇 運転資金の健全化	印刷業
卸小売	去年は増税前にも関わらず、前年比10%の伸びを見たが、今年は逆に全く不調。衣料品は天候に大きく左右されるが、寒さが来ると全く売れなくなる。春物のセールも今迄に無い位悪かった。	天候不順 売上不調 春物セール不調	婦人・子供服小売業
	4月23日に新規テナントがオープンし、来店客増加に期待。	新規テナントオープン	書籍・文房具小売業
	天候不順のせいかわ、消費者の買い控えが不明。過剰な気象予報があった日は外出する人が非常に少なく感じる。	天候不順 消費者の買い控え	時計・眼鏡・光学機械小売業
	東京や成田にある系列店では、外国からのお客様が売上増加に大きく影響しているが、柏では殆ど影響が無く、厳しい状況が続いている。	系列店での外国人客増	その他の各種商品小売業
	物価の高騰で買い控えを感じる。4月の賃上げでカバーされるか不安。	消費者の買い控え	その他の各種商品小売業
	4月上旬は、例年にない天候の悪さにより、前年同月を下回った。	天候不順 売上減	菓子・パン小売業

【平成27年4月の業種別業界内トピックス】

	<p>当店にとって影響が大きいことは、乳製品とチョコレートの値上げです。</p>	<p>原材料値上げ</p>	<p>菓子・パン小売業</p>
	<p>4月初旬から下旬頃の関東から九州は、天候不順が続き、日照時間が半分程度となって、青果物の生育の遅れから入荷量が減少し、主要野菜の価格は高騰した取引となって推移しました。果実も同様で品薄傾向から高値取引をしています。その後、天候が回復し、気温の上昇により品薄だった野菜の入荷量が増加し、相場を戻している品目もあります。今後は、ゴールデンウィークを迎え、行楽地の消費など期待されるところもあるので、産地情報の動きと合わせて安定供給をして参ります。</p>	<p>天候不順 主要青果の価格高騰</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>主たる仕入先業者は「柏市場」にて調達していますが、市場が大変買出し人が減っている気がします。個人営業の飲食店が来なくなっているのですが、何か変です。</p>	<p>柏市場</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
サービス	<p>個人需要の海外は、7月のスイスと9月のアイスランドへのチャーター便が好評。定期直行便のない都市へのアクセスの良さが好印象。国内は、関東近郊へのGW間際需要が旺盛。法人需要では、秋の職場旅行の検討に入り始めている企業が多い。</p>	<p>ゴールデンウィーク 関東近郊旅行 秋の職場旅行</p>	<p>旅行業</p>
	<p>お客様からの問合せは相変わらず活発です。利益の出ている法人需要が出てきました。一般の顧客は、低価格の物件に対しての引き合いが多いです。</p>	<p>問合せ増加 低価格物件</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>不動産は好調ですが、タイミングをずらすと決まらないのがまだ柏の弱さでしょうか。</p>	<p>業況好調</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>年度末の繁忙期も良好な内に終わり新年度を迎えましたが、重税感をかなり感じています。やはり、消費税の影響が一番大きいと思います。今後の社会保障費の増加負担を考えると資金繰り等の見直しと対応が必要になってくる年度です。</p>	<p>消費者増税の影響 社会保障費の負担増 資金繰り見直し</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>景気上向きに思えるも、業界中小は単価下落に厳しい状態。</p>	<p>業況不調 受注単価下落</p>	<p>ソフトウェア業</p>

◎原材料費高騰

材料費の上昇が止まらないのが不安。これだけ何もかも仕入単価が上がっても、製品価格に転嫁出来ず辛いです。

内装工事業

原材料が取引在庫減少と投機マネーの流入で高騰。

特殊産業用機械

◎天候不順による販売不振

去年は増税前にも関わらず、前年比10%の伸びを見たが、今年は逆に全く不調。衣料品は天候に大きく左右されるが、寒さが来ると全く売れなくなる。春物のセールも今迄に無い位悪かった。

婦人・子供服小売業

天候不順のせいか、消費者の買い控えか不明。過剰な気象予報があった日は外出する人が非常に少なく感じる。

時計・眼鏡・光学機械小売業

4月上旬は、例年になく天候の悪さにより、前年同月を下回った。

菓子・パン小売業

◎先行き不透明

景気が回復した感はあるが、3ヶ月以上先が全然見えない。

電気工事業

2015年度は、一定の売上が見込めるものの収益面が不透明。

その他の機械・同部品製造業

平成27年4月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.8に対し、「CCI-LOBO」が▲15.3で柏の方がマイナス幅が1.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.4に対し、「CCI-LOBO」が▲8.3で柏の方がマイナス幅が6.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.3に対し、「CCI-LOBO」が▲16.4で柏の方がマイナス幅が14.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業では、10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲43.3に対し、「CCI-LOBO」が▲44.7で柏の方がマイナス幅が1.4ポイント小さい。「柏の景気」が良い業種は、建設業、製造業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△8.4に対し、「CCI-LOBO」が△11.0で柏の方がプラス幅が2.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.0に対し、「CCI-LOBO」が▲8.8で柏の方がマイナス幅が3.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。

平成27年4月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 16.8	 ▲ 13.0	 ▲ 5.5	 ▲ 44.4	 △ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 15.3	 ▲ 10.1	 ▲ 15.6	 ▲ 18.1	 ▲ 13.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.4	 ▲ 26.0	 ▲ 16.6	 ▲ 18.5	 △ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 8.3	 ▲ 12.6	 ▲ 8.2	 ▲ 4.9	 ▲ 7.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 31.3	 ▲ 39.1	 ±0.0	 ▲ 55.5	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 16.4	 ▲ 13.9	 ▲ 15.5	 ▲ 18.5	 ▲ 16.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 43.3	 ▲ 47.8	 ▲ 27.7	 ▲ 48.1	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 44.7	 ▲ 49.4	 ▲ 40.3	 ▲ 44.9	 ▲ 42.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 8.4	 △ 8.6	 △ 22.2	 ▲ 7.4	 △ 20.0
CCI-LOBO	 △ 11.0	 △ 9.3	 △ 2.2	 △ 16.1	 △ 18.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.0	 ±0.0	 ▲ 11.1	 ▲ 37.0	 △ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 8.8	 ▲ 2.5	 ▲ 8.8	 ▲ 16.0	 ▲ 7.3

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (4月速報)

調査期間：平成27年4月15日～22日

調査対象：全国の422商工会議所が3003企業にヒアリング調査を実施

全国の業況
 業況DIは、前年の反動から大幅改善。先行きは鈍さ残るも持ち直しを見込む

4月の全産業合計の業況DIは、▲15.3と、前月から+9.4ポイントの大幅改善。ただし、比較対象の前年同月は、駆け込み需要の反動減により業況が落ち込んだ時期であることに留意が必要。取引価格への転嫁遅れや、人手不足、人件費・電力料金の上昇などが足かせとなり、回復のペースにばらつきが残るものの、輸出増などに伴う生産の伸びや好調なインバウンドが下支えするほか、株高や今春の賃上げを背景に消費者マインドが上向きつつあるなど、中小企業の景況感は、総じて持ち直しに向けた動きが続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲13.6（今月比+1.7ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。中小企業においては、依然として、コスト増加分の価格転嫁や電力料金の値上げ、人手不足などが懸念材料となる状況が続く。他方で、株高・賃上げに伴う個人消費の回復や輸出をけん引役とする

生産増などへの期待感から、先行きは緩やかに回復するとの見方が伺える。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「昨年度に比べ、自治体などからの公共工事の発注量が少なく、売上が伸び悩んでいる」（一般工事業）、「新卒採用を計画しており、人材確保のため、給与や休日・休暇などの待遇を見直した」（一般工事業）、「経済対策による住宅ローンの金利引き下げを受けて、中古住宅購入とリフォームの引き合いが増加傾向にある」（建築工事業）

【製造業】「4月から乳製品仕入コストが増大。収益を圧迫している」（洋菓子製造・販売業）、「加工精度や生産性の向上を図るため、新規設備投資を予定している」（プレス加工業）、「自動車や産業用機械向けのチェーン受注が堅調。業績も安定してきている」（自動車部品製造業）

【卸売業】「日照不足により野菜の出荷が不安定だった

ものの、北陸新幹線の効果もあって、受注が増加」（農産物卸売業）、「天候不順の影響により、帽子などの夏物商品の出足が鈍かった」（服飾品卸売業）、「販路拡大を図るため、新たに技術職の採用を計画しているが、難しい」（電気機器・制御システム卸売業）

【小売業】「中国から大型客船が来港し、売上が大幅に増加したものの、地元客の購買意欲は依然として鈍い」（百貨店）、「新入学・新学期を迎え、子供や保護者向けの靴、バッグ、文具などが好調」（総合スーパー）、「駆け込み需要の反動減の影響が一巡し、前年同月比では飲食や衣料品などの売上が伸びている」（商店街）

【サービス業】「食料品の値上げによる収益圧迫が続くため、採算が合わないメニューの見直しを検討する」（飲食店）、「ゴールデンウィークの宿泊予約が伸びており、業績は堅調に推移」（旅館業）、「採用募集の頻度を上げていくが、警備員の確保が難しく、採用人数は前年度比で3割程度に止まっている」（警備業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲26.0	▲10.2	▲18.8	▲34.6	▲46.9	▲20.0
12月	▲29.7	▲9.4	▲23.6	▲40.5	▲48.7	▲26.0
1月	▲25.9	▲14.4	▲17.5	▲30.5	▲48.2	▲19.2
2月	▲21.7	▲9.4	▲14.9	▲29.8	▲43.5	▲12.9
3月	▲24.7	▲6.8	▲15.6	▲34.2	▲49.7	▲17.7
4月	▲15.3	▲10.1	▲15.6	▲20.5	▲18.1	▲13.2
見通し	▲13.6	▲10.1	▲13.9	▲18.3	▲19.2	▲8.0